

中露が大型軍用輸送機の輸入協議を再開

阿部信行

(コメント)

中国がロシアから大型軍用輸送機 IL-76/78 を輸入する事業は、かつてスホーイ戦闘機のコピー問題のこじれ等から、中国はロシア側の引き延ばし戦術に遭っていました。

しかし最近の米露の確執からプーチンは中国を取引カードにするため最先端から多少劣る技術水準の武器輸出を認めようとしているようです。

ロシア技術者は反対していますが、政治優先でプーチンは認める可能性があります。しかし値段はそれ相応の価格です。

タイトル「中露が大型軍用輸送機の輸入協議を再開」

(出典：漢和防務評論 20130725)

ロシア軍事工業界の権威筋は、中露が IL-476 型輸送機及び IL-78 型空中給油機の輸入協議をすでに開始したと述べた。

双方はこの問題で密接な意思疎通を図るであろう。中国航空工業界の消息筋は、「確かに IL-476 は欲しいが、今回は新型機がロシアの工場をでてから研究と視察を行ったのち決定される」と述べた。

上述のロシア権威筋は、「我々は協議を急いではいない。ロシア UNIANOVSK の航空機工場で生産された IL-476 は現在国家の領収試験飛行を実施中であり、2015 年以前は、ロシア軍向けの注文に応じなければならない。したがって IL-476 の輸出許可は早くても 2015 年まで待つ必要がある。その前に急いで協議書に署名すれば、価格問題で争いになる可能性がある。なぜならば契約から履行まで一定の時間が必要であり、通貨の変動を考慮しなければならないからだ」と述べた。

中国は、必ず IL-476 を必要としている。中国の新型 Y-20 輸送機が試験飛行を行ってはいるが、部隊に装備されるまでには長い期間が必要だ。また Y-20 に装備された D-30KP-2 型エンジンは旧式で、1970 年代水準のエンジンである。したがって中国にとっては、少量の IL-476 を輸入すると同時に新時代の PS-90 型エンジンを大量に輸入し、Y-20 型輸送機或いは後期生産型の H-6K 型戦略爆撃機に搭載する必要がある。

このやり方は、かつて SU-27SK の生産技術移転の名目で AL-31F 型エンジンを輸入し中国製の J-15 及び J-16 戦闘機に同エンジンを取付けたのに似ている。或いは中国は、PS-90 エンジンを利用し中国独自の新時代の戦略爆撃機を開発するであろう。

D-30KP-2 型エンジンについても、中国が IL-76MD 機の修理名目で輸入したエンジンであり、中国は Y-20 輸送機及び H-6K 爆撃機に転用しようとしている。

以上